

綿々しんぶん

第3号

アバンティコットン倶楽部

コットンの日
2024年5月10日 金曜日

24年度アバンティコットン倶楽部、 全国35拠点で種まきがスタート。

アバンティコットン倶楽部4年目の春。いよいよ今年も全国35拠点のみなさまとの綿づくりが始まります。5月3日、栃木県佐野市「川田ファーム」を皮切りに種まきがスタート！今年もコットン倶楽部の新拠点が16箇所増えました。継続19拠点、新規16拠点の合計35拠点です。23年度は21拠点で福祉作業所の参画が多かったのですが、今年度は幅広い業種（学校、ソーラーシェアリング等）からの新規参画が増えました。特に関東エリアが増えています。



5月3日、川田ファームにて種まき。



川田ファミリーとアバンティ社員でパチリ。

綿の花からの酵母菌でパン・ビール作り 栽培者へ還元できる副産物として

花酵母の権威である東京農業大学の数岡孝幸教授（東京農業大学 応用生物科学部 醸造科学科教授）との研究にて途中経過ではありますが、酵母が採れる確立が高いといううれしい知らせがありました。

ただし、酵母菌を見つけるには数々の試験結果が必要になります。パン・ビールの製造酵母を見つけるには、元となる菌株を探す必要があり、菌株が見つかるまで発酵力を調べるためにさらに何種類もの試験を実施。それから菌の力がパンやビールの用途に適しているか、さらに試験を重ねていく必要があります。



当初、綿は1日にして花が閉じてしまうので菌の付着も、花を採取することも難しく、取れても菌は少ないのではと思われていましたが、結果として他の花よりも菌の付着が多く、それゆえにかなりの試験時間を要することとなりました。

パンやビールができるまでまだ時間がかかりそうですが、楽しみにしていただけたらと思います。



綿の品種と今年 の主要栽培品種



天使の贈り物

緑棉

綿の分類は品種が多く、すべてではありませんが、今年アバンティコットン倶楽部で育てる綿の分類と品種は以下の通りです。

- ① アジア綿系・・・和綿として育てられる品種はアジア綿の分類。繊維長が短いので紡績には不向きで布団の詰綿などに向く。
- ② 大陸綿系・・・アップランドや陸地綿、洋綿とも呼ぶ、中米生まれの分類。繊維長が長いので紡績に向き、世界で一番多く栽培されている。
- ③ 海島綿系・・・エジプトで多く栽培される繊維長がかなり長い超長綿。収量は少ないが、繊維に光沢があり長いので高品質の糸ができる。

今年のものである大陸綿の「天使の贈り物」「ファイバーマックス」とすることにしました。収穫量や気候の異なる場所においても平均的に良い結果が出、長綿のなかでも繊維も長く、繊維離れも良いためです。また、大陸綿系の緑綿や茶綿、海島綿など色やクオリティの高い綿にも引き続きチャレンジしていきます。

23年度実績報告

収量実績と目標

23年は17反作付けし、トータル540kgの収穫となりました。反収は50kg、22年の17kgから約3倍に増加。24年は反収70kgを目指します。

プリステインの国産綿混用率2%までの道のりを一歩一歩、着実に進めてまいります。

	2022年実績	2023年実績	2024年目標	2030年目標
作付面積	20 反	17 反	14 反	75 反
反収	17 kg/反	50 kg/反	70 kg/反	80 kg/反
収穫量(種あり)	345kg	540.3kg	1,000kg	6,000kg



23年11月4日 アバンティコットン倶楽部3年目にして初めての収穫祭を栃木県佐久市川田ファームにて開催。最高気温22度、風もなく絶好の収穫日和でした。今回はプリステインショップのお客様ご家族、24年度綿栽培に取組むご家族やお取引様、川田ファミリー、アバンティストッフと家族、子供から大人まで総勢30名の参加となりました。川田ファームでは今期10種類の綿を試作。どの綿も順調に育ち今日の日を待ちわびている様でした。収穫は午前中2時間では終わらず、昼食を挟み午後1時間、計3時間の作業になりました。同じ綿でも、品種ごとに色も形も大きさも違うことを実感しながら収穫を楽しんでいたのだと思います。参加した子どもの中には、収穫する中で、品種よっての相違点、綿に止まっていたんとう虫の違いなど、小学生とは思えない観察力を発揮し、大人が驚かされました。

昼食は新米で作ったおむすびと手前味噌のお味噌汁。アバンティストッフ手作りのおかず、川田ファームの果物など盛りだくさん、シートを敷いて野外での楽しい昼食となりました。ひと仕事を終えた後、外の空気を吸いながらのご飯はとてもおいしく、みなさんおかわりし満腹になったようです。畑もにぎやかで綿も喜んでいたらと思います。

今回の収穫量は約30kg。10種類ある綿が混ざらないよう品種ごとに小分けします。また綿は収穫後十分に乾燥させないとカビが生えたり、綿くりに影響するので、洗濯ネットを用い吊るして乾燥させてから保存します。

1年畑を管理していただいた川田ファームのみならず、今回応援くださったみなさまに感謝の1日となりました。帰りには川田ファームで採れた柿もいただき、初めて行った収穫祭を楽しく無事終了することが出来ました。



←収穫祭の賑やかな昼食

↓昨年11月、川田ファームの収穫祭での集合写真。

収穫祭を初開催



福祉作業所との取り組み

23年度より、群馬県太田市障害福祉サービスありさんちに協力いただき、自社での綿くりがスタートしました。本年も3月末までに昨年度分約540kgの綿くりが終了。綿くりした種を品種、栽培者別に自社保管が出来るようになっていきます。

これから、アバンティのリサイクルの取組リコットンにかかわる作業を含め、綿花栽培と福祉作業所様との協業のモデルケースとして引き続き取り組んでまいります。



色や素材で分別する



リコットンの仕分け作業の様子

おくもりのコラム

「木綿浄土」

絹は光沢があり美しくハレの日に用いられる高価で贅沢なもの。でも長く使い続けるとその輝きは失い寂しい状態になってしまう。麻は夏に涼を呼ぶ快適なもの、ただし冬の季節身を守るには寒いもの。

一方、木綿は朝から寝るまで、そして肌着から布団まで日本の生活に無くてはならないものでした。そして使えば使うほど柔らかくなり最後は雑巾としてポロポロになるまで人様のお役に立ち、最後は土に還る。

そんな木綿の様な人生を送りたいと思いつつ…

なぜ木綿は使えば使うほどに柔らかくなるのでしょうか。それは使用と洗濯を繰り返す事で、撚りをかけた糸が緩み、もとの綿に戻ろうとするからです。

そんな時が一番愛着が湧く時ですよね。大切に育てた綿を、元のような柔らかさになるまで大切に使うってこそ木綿浄土です。



編集後記



今年も全国でコットンの種まきが始まりました。昨年の試作結果を元に、今後に向けて大陸綿を強化するため、大陸綿2品種を主栽培品種としました。またみどり綿、茶綿（ともに大陸綿）と超長繊維でもある海島綿を追加試作してまいります。本年度は新たに16拠点の方々が参加してくださり、今まで以上に様々な方たちとのネットワーク、棉作りの輪が広がることでしょう。来年5年目の節目を迎えるにあたって、今年の栽培結果は重要で、楽しみにしています。（川邊）